

富山大学附属図書館将来構想

平成 30 年 3 月

1. はじめに

平成 21 年度第 2 回附属図書館運営委員会において、「富山大学附属図書館の使命」が以下のとおり定められた。

『富山大学附属図書館は、富山大学の理念・目標を達成するために、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した国際水準の教育及び研究を支える学術情報基盤を担うものとして設置された。

附属図書館は、この任務を遂行するために、学生及び教職員が必要とする学術情報資料を整備・提供し、快適な学習・教育・研究環境を構築する。これらの資源を学外の利用者にも提供するとともに、学内外の組織・学術機関等と協力して、地域と国際社会における教育の充実、学術の進歩及び芸術文化の振興に貢献する。』

また、平成 24 年 1 月には『富山大学附属図書館将来構想（整備計画）』が更新され、「施設・設備」、「学修支援機能」、「研究支援機能」、「社会貢献・地域連携」について、図書館が整備すべき基本的な目標と実現方策が示されている。

その後、6 年が経過し、第三期中期目標・中期計画期間となり、図書館が達成すべき目標にも変化が生じているため、あらためて『富山大学附属図書館将来構想』を更新し、次に掲げる事項の実現につとめる。

1. 教育支援

図書館の教育支援機能を大学の教育改革に適合する方向性での強化

- (1) 情報リテラシー教育体制の整備
- (2) 情報リテラシースキルの養成に関わる職員の育成
- (3) 授業との連携による情報リテラシースキルの実質化
- (4) 学生用資料の整備

2. 研究支援

電子ジャーナル・データベース等、学術情報基盤の維持・整備

- (1) 予算規模に適した電子リソースの契約内容見直し
- (2) 機関リポジトリによる本学研究成果の発信および視認性の向上
- (3) 大学院生および若手教員に対する英文ライティング支援
- (4) 「ヘルン文庫」デジタル化の推進による人文科学分野の研究基盤提供

3. 職員養成

時代に適合した図書館機能強化のための課題に対応できる職員の養成

- (1) 海外大学図書館の先進的動向の調査
- (2) 職員研修の実施

4. 組織改革

業務一元化・効率化の実現

- (1) 重点化すべき業務に対応できる人員配置の見直し
- (2) 3図書館の運営委員会機能の見直し

5. 施設整備

書庫の狭隘化やアクティブラーニングへの対応

- (1) 資料廃棄基準の継続的な見直し
- (2) 書庫の整備
- (3) ラーニングコモンズ・スペースの整備

6. 社会貢献・地域連携

- (1) 学習スペース開放の継続
- (2) ヘルン文庫の公開、資料の電子化による発信
- (3) 機関リポジトリによる研究成果等の発信

7. 自己評価・自己点検

- (1) 年次報告の作成および評価

8. 研究開発室事業

図書館機能向上のための調査・研究の実施

- (1) 授業と連携した情報リテラシー教育
- (2) 「ヘルン文庫」電子化